

学力向上	わかる授業魅力ある授業への転換	授業による学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 主体的、対話的で深い学びを意識した授業展開に取り組む。 [指標：職員アンケート] 私は授業改善に取り組んでいる(3.4) (前年3.35)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の個性を把握し、基礎学力向上を意識した授業の改善 主体的、対話的で深い学びにつなげる授業改善 	B	<ul style="list-style-type: none"> 指標(3.1)であり目標の(3.4)に及ばなかった。感染症対策のために対話的な活動を控えたことや、休校期間を取り戻すために進捗が早くなった等の影響が考えられる。今後も授業改善への取組を努めたい。 授業改善に伴って本校でもALやICTの活用が実践されている。但し効果については、検証が必要である。
			[指標：生徒アンケート] 私は積極的に授業に参加している(2.8) (前年2.57)	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の研究授業旬間の設定 授業見学レポートの活用 授業改善チームによる取組の継続 	B	<ul style="list-style-type: none"> 指標は(2.81)で、一応目標は達成できたが、次年度は(3.0)を超えるような授業を全職員で実践したい。 年2回の研究授業旬間は、授業を見学する、見られる機会を必ず持つように働きかけ、実施できた。授業改善に関する職員研修を実施した。
	計画的な学習指導の充実	計画的な学習指導と適正な評価	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の学習における課題解決に必要な思考力、判断力、表現力を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で生徒が主体的に考える授業研究に取り組み、生徒のやる気を引き出す 授業中の活動やレポート、作品、発表に対し、個に応じた適切な評価を行い、意欲向上につなげる 	B	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の影響で、年間計画を状況に応じて作り直し対応した。オンライン対策で、職員のICT活用指導力は向上した。生徒のICT活用力の向上、意欲向上につなげたい。 学習面における生徒の評価が(3.0)に届いていない。検証及び更なる授業改善が必要である。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育	ポートフォリオの充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のキャリアを着実に積み上げ、新入試制度に対応 	<ul style="list-style-type: none"> セルフチェックノート等によるポートフォリオの定着 各学年の進路研修会を充実し、全校で情報を共有化 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各行事や日々の学習、特別活動の振り返りをする時間を取り、生徒自身が主体的に自身の課題解決に具体的に取り組むように指導する。
	一人一人の進路目標達成	進路実績	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度を上回る進路実績の実現(進学100%決定・国公立大合格者20人・公務員指導の充実・就職100%決定) 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員による進路指導の充実 進路相談、面談の充実 個別指導・面接指導・学力検討会の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員の細やかな個別指導の結果、総合型選抜、学校推薦型選抜での合格が昨年度より増加した。 最新の情報を職員で共有し、的確な指導の徹底を継続していく。
		進路意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> 夢や目標を与える取組の実施 アカデミックインターンシップ(NAIS)及びインターンシップの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 日本や熊本で活躍する人による講演会の実施 生徒の適性を考慮したNAIS及びインターンシップの実施 地元企業や同窓会と連携した幅広い受入先企業の開拓 	A	<ul style="list-style-type: none"> 講演会等については、コロナの影響で、学年単位で実施した。 今年度のNAISについては、制約の中で最大限のものが実施でき、生徒が進路意識を持つことができた。 インターンシップについては、地元や同窓生の企業の協力で、大変有意義なガイダンスとなった。
生徒指導	交通安全	交通事故・マナー違反をなくす	<ul style="list-style-type: none"> 登下校での交通事故防止 命の尊さを意識する交通指導実施 自転車ヘルメットの着用 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全集会で危険個所の理解と危険行為の撲滅を図る 警察や地域の協力を仰ぎ、生徒の命を守る 毎月11日を「交通安全の日」とし、命を大切にす意識や交通ルール マナーの意識を高め、安全な登下校につなげる 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「交通安全の日」を設定し、毎月の交通指導や警察との合同交通指導を実施したことで、生徒の安全に対する意識は高くなってきていると感じる。今後も継続していきたい。 交通事故件数は例年と変わらなかった。新入生への早期の指導やポイントを絞った指導を行っていく。
	基本的な生活習慣の確立	時間厳守 爽やかなあいさつ 正しい着こなし	<ul style="list-style-type: none"> 朝の遅刻者数減 あいさつ・時間厳守・服装 [指標：生徒アンケート] (3.2) (前年3.01)	<ul style="list-style-type: none"> 全職員による毎朝の遅刻指導、職員からの率先したあいさつ励行 機を逃さない服装指導 生徒会によるあいさつ・交通指導等への指導・支援 	A	<ul style="list-style-type: none"> 服装や頭髪で指導を受ける生徒は減り、検査時に違反者無し学年もあった。遅刻者は昨年1日平均2.2人から0.3人と減少した。 生徒会のあいさつ運動・交通指導を定期的に行うことができた。
	能動的言動の育成	各行事における生徒の自主性の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体となった行事の企画・運営 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等において可能な限り、生徒主体への移行を図る 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で中止になった行事もあるが、出来る範囲の中で生徒会を中心に工夫して行うことができた。
		高い志及び目標を持った高校生活実現の支援(フラスワンの指導)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が目標を持って、学校生活を送っている 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員による様々な場面での声かけ励まし等の支援 面談週間の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会が発案企画し「授業に取り組む姿勢を改善しよう」を実施した。各クラスで目標を立て、生徒を中心に改善を行い、授業への意識は高くなった。充実した学校生活への支援を今後も続けていきたい。
	美化、環境意識の高揚	掃除への意識高揚、環境ISOの取組推進	<ul style="list-style-type: none"> 美化・省エネ [指標：生徒アンケート] (2.9) (前年2.78)	<ul style="list-style-type: none"> 掃除箇所・担当を見直し、掃除指導の徹底を図る 細めな消灯・節電・節水 	B	<ul style="list-style-type: none"> 掃除箇所や担当を見直し、週3回の掃除を充実し努めた。生徒アンケート評価は3.06と高くなった。 掃除に関する職員の自己評価が、前年比0.2減となり、職員の掃除に対する意識向上が必要である。
人権教育の推進	職員研修の充実	人権教育の基本的認識の確立とその共有	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の充実 特別支援教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 人権や命の問題についての知識や考察を深める研修の実施 合理的配慮、個別の教育支援計画の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修では、近年の部落問題の傾向を掴むことができたが、意見交換などもう少し意識を深めたかった。 教育支援部や学年と連携し、年間を通し、SCやSSWを活用した継続的な対応ができた。

	命を大切に する心を育 む指導	自尊感情及び他 者を尊重する態 度の育成	・命を大切にする心の育成の 充実 [指標：生徒アンケート] (3.2) (前年3.07) ・生徒および職員の心身のス トレスの軽減 ・ボランティア活動等の体験 活動の充実	・授業等で命の大切さについて学ぶ機 会を各職員が2学期までに1回以 上設定 ・リラクゼーション等の知識や技術の 定期的な啓発と促進 ・生徒会による取組への指導、支援 ・西校コミュニケーション・サークル (NCC)の実施	B	・各授業で、機を見て生徒に語りかけ る姿があった。 ・コロナ禍のため活動が制限されたこ ともあり、働きかける機会が少なかつ た。 ・必要とする生徒に対して、月1回程 度実施することができた。
いじめ の防止 等	人権意識の 育成	いじめをしな い、許さない心 の育成	・いじめ解消率100% ・生徒会による取り組みの充 実 ・外部専門家の活用推進	・本校いじめ防止基本方針に従い、未 然防止および早期対応の実施 ・本校独自の「こころのアンケート」 の実施と活用 ・生徒会による取り組みへの指導、支 援 ・SC、SSW、医療機関等との積極 的な連携	B	・疑わしき事案発生時も担任、学年主 任、管理職等が連携して対応した。 ・訴えた生徒に対し、迅速に対応でき た。声を上げることができない生徒 の早期発見、対応が課題。 ・コロナ禍で活動が制限されたことも あり、働きかける機会が少なかつた。 ・迅速かつ適切な対応をすることがで き、一定の効果が得られた。
地域連 携(コミュ ニティ・ス クールなど)	地域連携(コ ミュニティ・ス クールなど)	地域・保護者・ 関係機関との連 携	学校と地域の連携・協働のあ り方	・学校行事(創立記念祭・チャレンジ ウォーク・避難訓練等)をとおした 交流事業の充実	B	・実施が制限されることが多かったが、 広報活動・動画配信等を充実させな がら取り組むことができた。 ・保護者の育西会活動への参加の評価 が(2.58)と低く、(3.0)を超える 評価を目指したい。
		(総合型)学校 運営協議会の設 置	(総合型)学校運営協議会の 設置	・(総合型)学校運営協議会による学 校評価や本校取組の検証並びに地 域(学校)防災体制の強化	B	・コロナ禍により書面実施の回もあつ たが、タイムリーな情報共有に務め、 十分な成果を得ることができた。
特色あ る教育	理数科・サイ エンス情報科の充実	研究活動の充実	・サイエンス情報科新設活動 の着実な実施 ・高大連携による実習の着実 な実施 ・発表会、コンテストでの入 賞	・サイエンス情報科の活動の充実及び 外部への積極的な情報発信 ・大学との事前協議の充実 ・科学イベントへの積極参加 ・中間発表の充実による意識向上 ・課題研究の進め方の改善や講座内容 の調整	B	・サイエンス情報科のPRとして、学 科の説明会やチラシの作成、中学校 への情報発信等を積極的に行った。 ・コロナ禍の中、新設の企業等との連 携活動や既存の高大連携活動など、 工夫を重ねることで実施できた。 ・科学イベント等中止になったものも あり、コンテストへの応募もできず、 課題研究の深化が課題である。
		志望者の増加	・高大連携による実習の着実 な実施 ・発表会、コンテストでの入 賞 ・特色的な教育活動を積極的に 中学校や地域へ発信	・サイエンス情報科体験プログラムの 実施 ・学校説明会でのPR実施 ・小中高連携活動の推進	B	・サイエンス情報科独自の説明会を 実施し、多くの中学生が参加し、好評 であった。また、学科案内のチラシ を作成し、中学校へ配付した。 ・学校説明会は、コロナの影響で例年 の2/3の中学校での開催であった が、着実に実施できた。
	体育コース の充実	専攻授業・実習 の充実	・専攻6種目の競技実績の向 上(全国大会出場者・入賞 数の増加)	・専門知識並びに技能の習得を目的と した講習会・実習の実施 ・体育コース集会(1回・月)におい て目標共有を図る	B	・時期の変更もあつたが、各種実習、 パラリンピアン講習会等を実施し、 視野を広げる貴重な機会となった。 ・1学期は不定期の開催となったが、 集会を通してコース内の連携を深め ることができた。
		志願者の増加	・県内及び近隣中学校への広 報活動拡充	・PRポスターやチラシの作成 ・学校説明会でのPR実施 ・近隣中学校との交流活動の充実	A	・HP及びインスタグラムやYouTube での動画配信などの広報活動を充実 させ、地域や中学校に十分なPRを 行うことができた。 ・タグラグビー教室やオープンスク ールの部活動体験等を通して交流を深 めることができた。
新型コ ロナウ イルス	新型コロナウ イルスへの 対策	新型コロナウ イルス感染拡大防 止対策	・臨時休校中の、登校日及び 家庭学習における感染拡大 防止対策 ・学校再開後の学校生活にお ける感染防止対策 ・新型コロナウイルスを含む 感染症に対する教育を実施 する	・手洗い、うがい、手指の消毒等を奨 励し、不要不急の外出は控え、計画 的な家庭学習を行う、 ・学校生活において、三密を避け手洗 いや消毒等を徹底する ・感染症への知識やウイルスと共存す る生活等について、職員も共通理解 をし、生徒へ周知する	B	・手洗い、うがい、手指の消毒徹底 ・各教室にアルコール消毒液並びにサ ーキュレーター設置 ・教室の換気方法と熱中症及び防寒対 策を講じた空調機器の使用。 ・熊本県のリスクレベルに合わせた対 応の周知 ・濃厚接触者等への対応や感染拡大防 止の対策を安心メール等で周知 ・専門家(学校医・薬剤師)の助言に よる学校での対応策の検討と実施 ・登校時の健康観察と検温記録の実施
		回復措置	・学校再開後の授業確保 ・進路保障 ・生徒の心のケア	・夏季、冬季休業の短縮 ・学校行事の精選 ・ゼミ(課外授業)の実施 ・外部機関(予備校や専門学校等)と 連携した新規取組の実施 ・面談やアンケートを実施、SC等 を活用する	B	・夏季、冬季休業の短縮や学校行事の 精選で、授業時間を確保できた。 ・3年生の進路保証のため、課外授業 に加えて、予備校と連携した講座(希 望者)を開講した。 ・個人面談やアンケートで、コロナ関 係の内容を追加し、生徒の状況を把握 し、必要であればSC等に繋いだ。

4 学校関係者評価

地域住民並びに行政、教育関係、企業や同窓生、保護者の立場から、「教育目標」「学校経営」「生徒指導」「地域連携」「特色ある教育」「コロナへの対応」に加え、「学校評価」の方法や結果等について幅広く御意見をいただいた。特に本年度は、コロナウイルスへの対応や遠隔授業等への関心が高く、質問も多く出た。初めての対応で、苦勞も多かったが、本校の丁寧な対応に対して高い評価をいただいた。昨年度から始めた1年生全員の西高アカデミックインターンシップ（NAIS）や本年度から始めた2年生全員のインターンシップについても関心が高く、コロナの影響でNAISの一部はオンラインでの実施に変更したり、インターンシップも学校での職業ガイダンスに変更したりと実施できる範囲での内容に変更になったが、生徒の評価も高く、関係者の方からも好評であった。また、コロナの影響で高校総体・高校総文祭が中止になる中で、代替大会等での生徒の活躍やその後の大会等で普通科体育コースの専攻6種目の活躍はもちろん、各運動部の活動内容の充実に加え家庭クラブや美術・書道、競技かるた等文化系部活動も活躍し、全国大会への出場等で、ますます本校が注目されて学校の魅力化が進み、生徒募集や学力向上につながることを期待していただいている。

また、今年度、超過勤務時間の削減等多くの事柄で学校改革や授業改善の取組を推進していることに御賛同をいただいた。さらに、中学校や地域に密着した生徒募集の活動や学科改編を行ったサイエンス情報科の取組には高い評価をいただき、eスポーツ部の活躍への期待も大きかった。

5 総合評価

(1) 学校教育目標 : コロナの影響も大きかったが、体育、理数科・サイエンス情報科、NAIS・インターンシップ、ボランティア活動等の生徒活動を、現状においてできる範囲で積極的に行った。また、台湾修学旅行は延期となったが、海外派遣研修やサイエンス情報科のイングリッシュキャンプはオンライン形式で実施し、世界的視野に立った生徒育成を推進するための基盤を継続することができた。

(2) 重点目標 : 体育コース、理数科・サイエンス情報科を持つ普通高校として中学生が目標とする高校（西区学校教育の拠点校）としての魅力を明確にするための取組を重視した。特に重点目標にあげた5点を推進できる体制を整えるため、熊本西高校「カイゼン」のための行動計画書の作成・実践を行った。

(3) 自己評価総括表 : 「生徒募集」、「授業改善」については成果とともに課題も明確化してきており、継続して取り組む必要がある。特に授業改善については、職員の意識は高いが、生徒の学習意欲や学力向上に結び付いていない部分があり、西高版授業の確立が急務である。日課の変更やゼミの見直しによる生徒と向き合う時間の確保、月間計画・報告の明示による部活動練習時間の明確化、超過勤務時間の削減は継続して成果を上げている。西高アカデミックインターンシップ（NAIS）やインターンシップをさらに発展させるため、関係各機関との連携、海外研修並びに修学旅行の充実、地域と一体化した防災計画、サイエンス情報科としての研究活動や企業や研究機関とのさらなる連携等、取り組むべき内容は多いが着実に前進している。生徒募集面では、地元の西区の生徒数が減少している中で、2学期当初の調査よりは志願者も増え、昨年度並みの受検者は確保できたが、サイエンス情報科でも定員割れを起こすなど後期選抜の出願状況からは大きな課題を感じざるを得ない。今年度以上に、地域の状況や教育行政の動きをしっかりと掌握すると共に、近隣小中学校と連携を密にすることで、今年度に構築した信頼関係をさらに高めたい。

6 次年度への課題・改善方策

(1) サイエンス情報科を中心に最先端情報技術等の学習内容を充実させることや普通科体育コースの競技実績を残すことで、学科・コースの特色を活かした教育活動を充実させ、学校全体の魅力化を図る。

(2) 西高アカデミックインターンシップ（1年生）やインターンシップ（2年生）を中心とした地域と連携したキャリア教育の充実を図る。

(3) 世界的視野に立った日本人の育成のため、海外修学旅行や海外派遣研修をさらに充実させ、生徒の成長を促す。

(4) 授業の充実と学びの基礎診断テストを中心に据え、ゼミや模擬試験の個に応じた活用や外部機関との連携等を推進することで学力向上の具体策を打ち出す。

(5) 学校行事の企画・運営、挨拶の励行、登下校マナーの確立など生徒の主体的な活動を推奨することで生活面の充実を図る。

(6) 学校改革・授業改革を校務分掌の再構成等の目に見える改革につなげ、さらなる業務効率化と教職員の負担軽減及び意識改革を進める。